

平成22年度 授業改善推進プラン

1. 学力向上を図るための全体計画

< 多摩市教育委員会の教育目標 >

- (1) 確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成：知性、感性、徳性を高め、心身ともに健やかな成長
- (2) 学校・家庭・地域の連携と市民参加の拡充：教育における学校・家庭・地域の連携と協働
- (3) 社会教育の振興と家庭教育の支援：豊かな教養を培い、自己実現を図り、心身の健康の保持・増進

< 本校の教育目標 >

21世紀は、共生と創造の時代
 社会の変化に柔軟に対応できる、個性的な人材や創造的な人材を育成するために、生徒一人ひとりに「生きる力」をはぐくむ。また、環境や資源を守り、民族の平和を願う信念を培うとともに、豊かに成長することを願い、次の教育目標を定める。

慈 愛 自 主 ・ 自 律 創 造

生徒の実態
 保護者や地域の願い
 教職員の願い
 時代や社会の要請
 家庭や地域の実態

< 校長の学校経営方針 > (学力向上に関して)

文武両道の教育 (学校行事・生徒会活動・部活動等や学習指導・読書活動の充実)
 十分な授業時数の確保と、きめ細かな学習指導・評価活動の充実 (指導と評価の一体化)
 学習意欲を高める授業の工夫 (校内研修の研究課題として研修。全教員が年1回以上の授業研究)
 基礎・基本の確実な定着 (授業での学習指導と学生ボランティアを積極的に活用した放課後の学習教室)
 「学習の記録」の発行による丁寧な学習評価 (個に応じた指導の充実と学習意欲の喚起)
 生徒や保護者、学校運営連絡協議会委員による授業評価を授業改善に活用 (教員一人ひとりの授業力の向上)

生徒一人ひとりに「確かな学力」を育成するために

- 1 「夢をはぐくむ教育」を実践し、将来に向け豊かな自己実現を図る。
- 2 魅力ある授業を展開し、自ら考え、主体的に取り組む生徒を育成する。
- 3 生徒の実態を把握した上で、基礎学力の向上を図る。
- 4 指導計画・方法や評価計画を改善し、生徒の学習意欲を高める。
- 5 外部の教育力を積極的に活用し、学校生活を充実させる。

本校の授業改善に向けた視点

教育課程編成上の工夫	指導内容・指導方法の工夫	評価活動の工夫	校内における研究・研修の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
2期制の実施 少人数授業の充実 放課後の「学習教室」の充実 年間を通した朝読書の実施	国、都の学力調査等による現状把握と改善 英語、美術のPTによるT・Tの充実 数学、理科での少人数授業の実施	「学習の記録」を発行し、きめ細かな評価の実践 教育懇談や学習カウンセリングにより、生徒の学習意欲の喚起を図る	「主体的に取り組む生徒の育成」を研究主題とした研修 全教員年が1回以上の授業研究 特別支援教育の研修により「個に応じた指導」の充実	生徒、保護者の授業評価による工夫と改善 学校運営連絡協議会委員の授業観察と評価の活用 PTAと連携の奉仕活動の実施

2 各教科の分析と改善策

国語 【学習状況の分析と課題】		
1年	2年	3年
<p>正確に聞き取る力が身につけていない 比較的ノートを丁寧に書く習慣がついている生徒も多い。 漢字などの基礎基本は定着しつつある。 朝読書等、読書に関する力も定着してきた。 書写に対する取り組みも熱心である。 自分の主張はできるが、それを的確に相手に伝えることは不得意である。 家庭学習の取り組みはできていない。 いろいろな情報を上手に活用し、表現する力が付いていない。</p>	<p>積極的に授業に参加する姿勢は良いが、学習に対する意欲が全体的に低い。 漢字などの基礎基本は十分に定着していると言えない。 書くことに関して、個人差があるが、十分とは言えない。 自分の主張はできるが、それを的確に相手に伝えることは不得意である。 正確に聞き取る力が身につけていない。 百人一首、短歌作成、変わり身の上話などの作品を作ることに對しては、大変意欲的であり、発想も豊かである。</p>	<p>漢字などの基礎基本は定着している。 正確に聞き取る力が身につけていない 朝読書等、読書に関する力も定着してきた。 書くことの領域では論理の展開は読み込めても、それに対し評価するところまでできない。 語句を単語として知っていても文脈の中で適切に使えない。 資料文の情報の中から必要な内容を選び、自分の伝えたいことがらを明確に表現することができない。 また、生活面に応用できる国語の書く力が付いていない。</p>
<p><改善策> 聞き取り試験や読み聞かせなどの授業を増やして正確に読み取る力を身につけさせる。(全学年) 定期的に漢字テストを実施し、繰り返しによって学力定着をはかる。家庭学習へつなげる。(全学年) 自己主張を相手に正確に伝えるため、自分の文章を読み返すことを学習にしっかりと位置付けていく。(全学年) 文章段落や話しの展開など良く吟味したり、自分の表現を活かすことを指導する。(全学年) 文学的文章を読むときに、その文脈中だけで単語の意味を把握するのではなく、生活の中でどんな展開場面があるかを考えさせる。(全学年) 資料文や論説文の学習をしたときに、内容把握や論理の展開に時間をかけすぎず、その先の自分はどうか評価し、それを他者にどう伝えるかをまとめる練習を増やしていく。また、文章表現に限らず、スピーチなどにも発展させる。(全学年)</p>		<p><補充・発展指導> 意味調べの中で、辞書の用例や短文にも着目させ作らせ、文脈に即した使い方を定着させる。(全学年) 読書の感想文だけでなく、説明文などについても初発の感想も書かせ、さらに意見交換もさせる。(全学年) 漢字定着を目指して、今までのように定期的に小テストを実施すると共に、漢字検定試験に挑戦させ、意欲を高める。(全学年) 俳句・短歌などの生徒作品を、外部の作品展に出品させ、生徒の意欲を高める。(全学年) 選択教科の中でも読み聞かせなどに取り組む。(全学年)</p>

社会 【学習状況の分析と課題】		
1年	2年	3年
授業に対する意欲は高く、けじめのある授業ができる。 理解力はあるが、知識の定着が十分とはいえない。 指示された内容は、まじめにできる生徒が多い。	授業に対する意欲は高く、けじめのある授業ができる。 基礎的な言語能力や計算能力につまずきがあり低意欲の生徒を支援する必要がある。 指示された内容はまじめにできる生徒が多い。	授業に対する意欲は高く、けじめのある授業ができる。 公民的分野と地理・歴史的分野を関連づけて理解する力を要する。
<p><改善策> 反復学習の場面を作り、基礎・基本の充実を図る。 (1, 2年) 高い意欲を発展的な学習と結びつけ、参加型授業で体験した内容を自分の言葉で発表するなど、言語活動の活発化する授業を企画する。 (3年) 板書計画を工夫することにより、授業内での理解力向上に努める。 (全学年)</p>		<p><補充・発展指導> 社会的用語の定着の難しい生徒の力をのばすため、ミニドリルで補う。 視聴覚教材を効果的に取り入れ、意欲・関心を高め、理解を促す。 社会的な用語を体験を伴って理解できるよう参加型の授業を多く取り入れる。 (全学年) レポートの提出により、関心のある分野を深めていくように指導する。(全学年) 言語活動の充実した授業を図る。(全学年)</p>

数学 【学習状況の分析と課題】		
1年	2年	3年
中学校に進学し、頑張ろうという意欲はある。 中一ギャップといわれるように小学校との授業のすすめ方や学習の仕方の違いにとまどう生徒や、分数計算や少数計算の基礎が十分ではない生徒も見受けられる。	分かる授業を行い、授業中の理解はできているが、家庭学習の定着していない生徒が多く、なかなか定着しない。 どの分野においても、表現・処理は概ね満足出来るが、見方・考え方、特に数量関係、図形分野に課題が残る。	少人数授業や、単元ごとの大テストを通して、計算などは良くできている。 文章題を読んで、数量関係を把握したり、自分の考えを数式で表したり、証明として記述したりすることに課題がある。
<p><改善策> プリントでの反復練習、少人数授業による個々の指導を行う。 (全学年) 授業規律を守らせ、聞く態度、授業に取り組む姿勢を作るよう留意する。 (1年) 丁寧に説明をし、こまめに質問を受け付け、理解を十分にさせてから次に進むように気をつける。(全学年) 授業ではワークシート等を取り入れ、考える時間を多くとり、発問に工夫をこらす。 (2年・3年) 解説を丁寧にしたり、複数の解き方を示したりしながら、より深く考えたり、自分の考えを式や証明で表す姿勢を養う。(3年)</p>		<p><補充・発展指導> 単元ごとにテストを行い、きめ細かく理解度を把握させ、つまずきに早く気付かせ、学習意欲を高める。 (2年・3年) 放課後の補習や学習教室などを通して、基礎・基本の定着を図る。 (1年) 前時の復習を兼ねる小テストを行い、家庭学習への意欲を高める。 (3年) 定着していない生徒には放課後に補習を行い、基礎・基本を定着させる。(2年・3年) 選択授業の内容に基礎コース・発展コースを設けて、個々に対応する。(2年・3年) 「数学の森」などを利用し、数学の歴史などに触れ、興味を持たせる。 (3年) 入試問題など、高度な問題も取り入れる。 (3年)</p>

理科 【学習状況の分析と課題】		
1年	2年	3年
<p>自然事象に関する関心があまり高くないが、実験に対しては意欲がある。 理解力はあるが、学習内容の定着が十分とはいえない。 実験などを多く取り入れ、集団での活動の時間を増やしていく。</p>	<p>自然事象に関する関心があまり高くないが、実験に対しては意欲がある。 理解力が低く、学習内容の定着が十分とはいえない。 実験などを多く取り入れ、集団での活動の時間を増やしていく。</p>	<p>自然事象に関する関心や授業に対する意欲の向上が見られる。 以前の基礎・基本の定着が不十分であるため、新しい学習をすることが困難な生徒がいる。 実験などを多く取り入れ、集団での活動の時間を増やしていく。</p>
<p><改善策> 定期的に宿題を出し、家庭学習をさせることで復習の時間を多くとらせる。(全学年) 練習問題を数多く行い、様々な問題になれるだけでなく、覚えた知識を定着させる。(全学年) 授業の進め方やワークシートを工夫し、生徒自ら図や表を用いて実験・観察のまとめをさせる。(全学年) パフォーマンステストなどを用いて、生徒の技能修得・発展を細かく確認・評価していく。(全学年)</p>		<p><補充・発展指導> 視聴覚教材などを多く用いることで、学習に対する意欲・関心を高める。(全学年) 学習内容の定着が十分でない生徒には、個人的に補習を行い、基礎・基本を定着させる。(全学年)</p>

音楽 【学習状況の分析と課題】		
1年	2年	3年
<p>授業規律の定着をはかっている。 男子は変声期にかかっているためか、声量が少ない。 鑑賞やプリントなどの机上で行う作業は、落ち着いてできる。</p>	<p>音楽への関心や意欲の差が大きい。 全般的に声量が少ない。 定期考査では、ワークやプリント学習をすることにより、正答率があがっている。</p>	<p>授業には、真面目に積極的に取り組む姿勢が多くみられる。 全般的に声量は豊かである。 定期考査では、ワークやプリント学習をすることにより、正答率があがっている。</p>
<p><改善策> 毎時間、発声の指導を行い、全学年ほぼ統一したものにし、3年間を見据えて指導していくことにより、より豊かな響きのある声づくりを行う。 授業に対して、また表現に対して自分はどう取り組めたか、自己評価できるようなものをつくり、音楽への意識を向上させ、表現能力を高めていく。</p>		<p><補充・発展指導> パート練習の時などに、個別指導を含め、よりきめ細やかな指導を行う。 音楽祭をめざして、授業の中でも指揮者・伴奏者・パートリーダーの育成を図り、自主的に活動させていく。</p>

美術 【学習状況の分析と課題】		
1年	2年	3年
<p>概ね美術に関心を持ち、意欲的な参加態度であるが、苦手意識が強い生徒も若干いる。個々により表現能力に大きな差がある。鑑賞の学習では、関心が持てず、理解することが苦手な生徒が多い。</p>	<p>全般的に美術に関心がなく、意欲的な参加が難しい生徒が多く、特に男子に多い。また、男女ともに知的好奇心に乏しい生徒が多い。表現能力に大きな差がある。鑑賞の学習では、関心が持てず、理解することが苦手な生徒が多い。</p>	<p>基礎的な表現力は普通で、構想・技能の高い生徒は少ないが存在する。意欲が高く、積極的に取り組んでいる生徒が多い。なかに、興味関心の低い生徒も若干は見られる。鑑賞の学習では、苦手意識はあるが、前向きに取り組んでいる生徒は多い。</p>
<p><改善策> 興味関心の低い生徒に対し、到達目標やわかりやすい目標を、具体的に目で見て確認できるように、作例などで示す。(全学年) 言葉やプリントだけでなく、ビデオなど視聴覚教材を取り入れた授業を行う。(全学年) 鑑賞では、今現在、話題になっている作家や作品をとりあげたり、修学旅行と関連させた内容を多く取り入れ、意識のある生徒へも、興味・関心の希薄な生徒へも働きかけをする。 ピアティーチャーの活用で、授業中の生徒へ個に応じたきめ細かい指導を行う。</p>		<p><補充・発展指導> 技能習得の段階指導では視聴覚教材を積極的に活用する。(全学年) 選択教科の時間には油絵や銅板の打ち出しなどを取り入れ、より高度な表現に取りくませる。(2,3年) より個性の興味・関心に従い、各自が個々に制作計画を立て、材料を用意し自主的に表現制作を行う。(3年) 授業がわからない生徒や作品制作ができあがらなかった生徒に対しては、積極的に補習を行うことで、全体の底上げを図る。(全学年)</p>

保健体育 【学習状況の分析と課題】		
1年	2年	3年
<p>全般的に運動に関心を持ち、意欲的に参加している。 個人差はあるが、小学校での技能習得の積み重ね練習が不足しており、目標レベルに至るまでに時間がかかる。(女子) スキルを理論的に理解することが苦手な生徒も多いが、一生懸命に取り組む姿勢も見られるので、個々の技能習得目標を設定して実践している。(男子)</p>	<p>全般的に運動に関心を持ち、意欲的に参加しているが、服装の乱れや、集団意識が薄い生徒もいる。 課題を明確にできず、スキル習得に時間のかかる生徒が含まれる。 スキル習得が苦手な生徒をフォローする生徒がいる反面、周りを理解せず、集団として行うことへの努力継続ができない生徒がいる。</p>	<p>運動が好きな生徒が多く、楽しみながら運動に積極的に取り組む姿勢が多く見られる。 思考・判断・安全の観点面では目標に達しない生徒が多い。しかし、指示に対しては素直に従うことができる。 グループ活動を行う場合には、リーダーとなりうる生徒が少ないため、全体的に行動が遅く、まとまりができにくい。</p>
<p><改善策> 言葉だけの説明ではなく、指導段階に合わせてカードでの表示や説明や、図式的な教材を活用する。(1年) 教師がしっかり手本を示す。また、習得ができていない生徒による演技(技能)も行わせる。そのような活動を通して、段階的な技能習得やお互いに教え合う場を定着させる。(全学年) なぜできないのかの原因を考えさせるために、授業内の発表時間を設ける。その際、他の生徒からも意見を聞く。(全学年) 一つの段階をクリアできた時には、良かった点や習得できた理由をハッキリと説明する。また、スキルテスト前には評価内容や注意点を具体的に説明し、テスト後には、個々の習得段階を解説する。(全学年) 集合の遅れや隊形の乱れ、服装の乱れなどが安全に運動することへの妨げとなり、大きな怪我にもつながることを、保健分野の授業時に徹底的に指導する。そのことを授業規律の定着につなげ、実技指導時に実践する。(2年, 3年) 個人の到達目標を単元カードに記入する。(全学年) 体育理論や知識の小テストを計画的に行うことで、家庭での予習や復習の定着を図る。(全学年)</p>		<p><補充・発展指導> 技能習得の段階指導では視聴覚教材を積極的に活用する。(全学年) 生徒自身を撮影して、直接データを解説することにより、課題を明確にする。 体ほぐし的な運動や体力向上のための内容を計画的に取り入れる。(1年) グループ内でのリーダーを育てるために、授業の進行を部分的に任せる。 グループ全体の評価を活用する。(2年, 3年) 課題を生徒同士が教えながら習得していく過程を評価することにより、学習意欲を高める。(3年) スポーツテストの結果を分析し、特に劣っている能力に関しては、レベルアップを図るために年間を通して授業に組み込む。(全学年)</p>

技術・家庭科 【学習状況の分析と課題】		
1年	2年	3年
<p>全体的に授業や課題に意欲的に取り組む姿勢が見られる。聞く力が不足するところがある。集中力の差が大きく、一斉指導では、教えきれないところがある。</p>	<p>学習意欲も意欲的な生徒と、そうでない生徒の差が目立ってきている。実習作業において、意欲的に作業に取り組めない生徒もいる。学習能力に差が大きく、一斉指導では、教えきれないところがある。</p>	<p>全体的に意欲的に取り組み、授業は真剣に取り組んでいる。自分から進んで問題解決する力は十分でないところも見られる。</p>
<p><改善策> 授業導入時、説明・応答を繰り返し内容を理解させる。例えば、道具の使い方を一行程ずつ丁寧に説明し応答を確認していく。また、TTによる机間指導を実行する。(1～3年) 実習作業時に、一人一人遅れた生徒を個別に助言を行い、遅れを取り戻すように励ます。(1～3年) 実習作業が進んだ生徒には、より高度な課題を与え、丁寧かつ作品としての完成度を上げるように指導する。(1～3年) 授業規律を高め、安全に関する説明を理解できるようにする。(1～3年)</p>		<p><補充・発展指導> 著しく作業の遅れがある場合、放課後に補習指導を行い、作業内容と、実習の理解を進める。(1～3年) 机(班)で協力し、相談してお互いに教え合いながら作業を進めさせる。(1～3年) 実習作業時に生徒の動きや、安全な道具の使用法などを教室掲示して、安全確保に努めさせる。(1～3年) 教師の実演、ビデオ等視覚的な指導を取り入れる。(1～3年)</p>

英語 【学習状況の分析と課題】		
1年	2年	3年
<p>生徒、保護者とも、英語の重要性を強く意識している。定期テストや単元テストの結果は良好で、基礎基本は定着しているといえる。しかし、個人差がある。英語の授業に対して学習意欲はあるが、家庭学習の定着が課題である。</p>	<p>多くの生徒は、意欲を持って授業に取り組んでいるが、一部には、取り組みの不十分な生徒が見られる。提出物や小テストへの取り組みは、個人によって差がある。予習復習が少しずつ定着してきている。</p>	<p>ほとんどの生徒が意欲を持って学習に取り組んでいる。定期テストや単元テストの結果は良好で、基礎基本は定着しているといえる。しかし、個人差がある。リスニングや英作文などの解答の要領がつかめていない生徒が目立つ。</p>
<p><改善策> 学習支援ピアティーチャーとのチームティーチングにより、英会話の活動を増やす。また、机間指導を行い、個々の生徒に、ノートを取り方や文法の間違えやすいところをその場で教えたり、質問に答える。(1学年) 単元テストを実施し、繰り返しによって学力定着をはかる。また、理解不十分な生徒には補習を行う。(全学年) 表現の能力を伸ばすため、身近なことを英文で表現させる活動を増やす。また、ALTと連携し、身近な内容に関する語彙や英文に親しませる。スピーチやインタビューテストなど実践的なコミュニケーション能力をつける活動を定着させる。(全学年) 文法事項を確実に定着させるために、ノートやワーク、プリントの宿題を出し、家庭学習の定着を図る。(全学年)</p>		<p><補充・発展指導> 学習支援ピアティーチャーの協力を得て毎週水曜日に実施している学習教室で、個々の生徒へのきめ細かな指導を行う。(全学年) 夏季の補習、試験前の質問教室、昼休みの単語再テスト、選択授業(補充)などで、理解不十分な生徒の支援を行う。(全学年) 発展的な学習を望む生徒には、英検などに挑戦するよう促している。そのための補習学習も行っている。本年より学校受験の場を設定した。(全学年)</p>